

教育委員会会議録

令和6年（2024年）8月定例教育委員会会議

開 会 日	令和6年（2024年）8月22日（木）	
開 会 時 間	午後2時00分 ～ 7時05分	
開 会 場 所	SPRING熊本花畑町 7階 D会議室 ※一部オンライン開催 オンラインでの出席者については各執務室	
出 席 者	委員会	遠藤洋路 教育長 小屋松徹彦 委員 西山忠男 委員 苦野一徳 委員 村田慎 委員
	事務局	須佐美徹 教育次長 小島雅博 教育次長 中村順浩 総括審議員兼教育総務 部長 福田衣都子 学校教育部長 他
協 議	(1) (仮称) 熊本市こども計画の骨子案について (2) 熊本市立中学校における新しい学校部活動の在り方について (3) 熊本市学校規模適正化基本方針（概要版）について (4) 藤園中学校・城東小学校 魅力ある学校づくり基本計画（骨子）について (5) 江南中学校・向山小学校・向山幼稚園 魅力ある学校づくり基本計画（骨子）について (6) 令和9年度市立高等学校入学者選抜について	
報 告	(1) 第1回教育委員会広聴事業について (2) 令和5年度（2023年度）図書館事業統計について (3) 令和7年度市立高等学校使用教科用図書の採択について (4) 令和6年度（2024年度）全国学力・学習状況調査の結果について (5) 令和7年度（2025年度）熊本市立学校管理職等採用選考試験の申込状況等について (6) 熊本市立平成さくら支援学校における令和7年度（2025年度）使用予定一般図書について	
自 由 討 議	こどもの体力向上の取組について	
署 名	小屋松 徹彦	
	西山 忠男	
会議録作成者	教育政策課 有働 真帆	

令和6年(2024年)8月 教育委員会会議録【8月22日(木)】

〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長	令和6年8月定例教育委員会会議を開会いたします。
〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長	本日は、私のほか4人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。 会議録署名人は、小屋松委員と西山委員とします。
〔公開の審議〕 遠藤洋路 教育長	本日の会議の内容につきましては、会議日程のとおりですが、本日の議事のうち、協議(1)(仮称)熊本市こども計画の骨子案については、本会議の協議結果も踏まえ令和6年8月28日の総合教育会議において公開することが適切と考えられ、会議規則第13条第4号「その他の案件」の非公開事由に該当することから、また、協議(2)熊本市立中学校における新しい学校部活動の在り方については、議決前の教育委員会の予算に関する内容が含まれており、会議規則第13条第2号「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する案件」の非公開事由に該当することから、また、協議(6)令和9年度市立高等学校入学者選抜については、本市の入試制度に関する意思決定前の情報が含まれており、会議規則第13条第4号「その他の案件」の非公開事由に該当することから、非公開の審議が適当と思います。 協議(1)(2)及び(6)につきまして、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。 (全員挙手) 全員賛成により、協議(1)(2)及び(6)は、非公開とします。
日程第1 前回会議録承認 遠藤洋路 教育長	7月25日開催の令和6年7月定例教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。この会議録を承認することに、

御異議はありませんか。

（異議なしの声）

異議なしと認め、前回会議録を承認することに決定します。

日程第2 事務局報告

・（1）事業・行事等報告について

日程第4 報告

・報告（1）第1回教育委員会広聴事業について

《中川浩二 教育政策課長 報告》

遠藤洋路 教育長

では、芳野中学校の武藤校長も来ていただいていますけど、何か補足等ありますか。

武藤敦子 芳野中学校校長

先日は、お忙しい中お越しいただきまして、ありがとうございました。

こどもたちは事前にいただいた質問に答えるのに準備を重ね、非常に緊張したと申しておりましたが、次にいらっしゃるときには、もっとすらすらと自分の考えを言えるようになりたいという思いと、とても楽しかったということを申しておりました。もう次は来られないよと言ったら、ああ、そうなんだとがっかりしていた様子もありました。貴重な時間をありがとうございました。

西山忠男 委員

感想ですけど、正直申し上げて、大変失礼な話なんですけど、行く前は山の中の田舎の学校というイメージで伺いました。申し訳ございません。行ってみたら、確かに田舎ではあったけど、生徒さんがとても純朴で、すばらしい生徒さんがたくさんいて、しかも優秀な生徒さんが結構いるなという印象があって、教育もとてもすばらしくやっていたらという印象を受けました。

ただ、やはり山の中で孤立していますので、他校との交流と

小屋松徹彦 委員

か、それから修学旅行等を利用した他市における文化との触れ合いとか、いろんなことを取り入れていただいて、生徒さんが何か孤立感を持たないように、広い世界を知っていただきたいなというふうに思いました。

芳野中学校は天空の中学校ということで、非常に高いところにありまして、そこに生徒さんたちは3つの地域から登ってくるわけで、その姿を思い浮かべるだけでその頑張りに感動するのですが、その生徒たちを受け入れる先生方も非常にまとまりが良く、こどもたちと先生方との信頼関係がしっかりできているなという感想を持ちました。

やっぱり少人数がゆえにこどもたちの関係性もいいなと思いましたし、先生方もこどもたちに親身に接していらっしゃると感じました。ありがとうございました。

遠藤洋路 教育長

私も意見交換のとき、中学生に、小学生と話すときに何か工夫しているようなことはありますかと聞いたときには、小学生が分かるようにいろんな言葉遣いとか、そんなことを工夫して分かりやすく話すようにしていますということを言っていました。

小さい学校なんで、日頃は人間関係というか、人数も少ない同じグループの中で過ごすことが多くなるとは思いますけど、小学生に対して、日頃の言葉遣いとか人間関係とは違う、人と接するという機会としては、小規模校の中でもこういう小中の交流とか連携というものが非常に有効なんだなということを感じた、そういう機会になりました。小規模校だからこそ小中一貫というのは有効な部分もあるんだなという、新たに気づきとしてはあったかなというふうに私も思ったところです。

村田槇 委員

フレンドリーオンラインの見学をさせていただきました。教育行政審議会の委員の立場では、本荘小のほうのフレンドリーオンラインの見学もさせていただいたんですけど、先生方の、より楽しく積極的に参加してもらえるにはどうしたらいいのかというふうに授業をものすごく考えていらっしゃるというのがとても伝わってきて、どちらもすごく勉強になりました。

特に芳野中のほうのフレンドリーオンラインの授業では、ちょうど数学の授業を拝見させていただいたんですけど、夏休みが楽しくなるかの占いといって数字をイメージしてもらって、

苦野一徳 委員

それを1,001で割るという仕組みの占いで、途中までまんまと私、この夏最高みたいな感じで思っていたら、実は必ずそうなるようになっていて、シェヘラザード数というんでしたっけね。それだったと分かったときには、ものすごく浮かれていた自分が恥ずかしくなったんですけど。ただ本当にそんなふうに夢中になって、一生懸命画面の向こうでもお子さんたちが参加していらっしゃると思うんですけど、積極的に授業を、授業というよりも楽しく参加する、共有する時間として過ごすということの大切さというものをすごく勉強させていただきました。ありがとうございました。

先日はありがとうございました。

当日、かなりお話をさせていただいて、こどもたちとも楽しく対話させていただいたので、屋上屋を架すことはないかなと思っていたんですけど、私も西山委員と同じように、本当にこどもたちが純朴で、話をされていて楽しかったですね。

以前KEWで、Kumamoto Education Weekでもこどもたちと一緒させていただいていたので、ようやくリアルで生徒さんたちと会えたというのも嬉しかったですけど、外部との交流が少し不足しているかもしれないというような声は当日もたくさん上がっていましたけど、私が思ったのは、ああいった場所にこそ行きたいと思っている方たち、アーティストだったりとか、何か教育関係者だったりとか、たくさんいらっしゃるんじゃないかなと思って、いろいろとネットワークをつないでいけば、ああいうところにどんどんいろんな人が流れていくような仕組みもつくれそうだななんていうことをちょっと考えたりもしておりました。

またKEWで一緒できたりするのかな、どうなのかななんて考えたりしていますが、そんな機会があったら楽しみにしております。ありがとうございました。

遠藤洋路 教育長

皆さん、ありがとうございました。

では、ほかに御発言がなければ本件は以上といたします。

日程第3 協議

・協議(3)熊本市学校規模適正化基本方針(概要版)について

《朽木篤 教育改革推進課長 説明》

西山忠男 委員

学校選択制度、小規模校の場合についてなんですけど、小規模校の小学校にどこからでも通学できるようにするということなんですけど、小学生だから、あまり遠距離の通学は難しいと思うんですよね。だから、このA小学校に何か非常に特徴的な教育を施すような仕組みがあれば遠距離でも通ってくるかもしれませんが、普通の小学校と同じような学校であればなかなか効果が上がらないんじゃないかなという気がいたしますよね。

だから、逆に大規模校の場合はどうかというと、これは生徒さんや親御さんの考え方によると思うんですけど、大規模校のほうがいいと言う方もいらっしゃるし、いや、小規模校のほうがいいだと言う人もいるでしょうし、あるいは部活動が活発な学校を選びたいとか、いろんなファクターが効いてくると思うんです。

だから、こういう仕組みをつくるのはいいんですけど、それだけじゃなくて、もう一つ何か分散させるような仕組みを考えないと、なかなか思ったようには分散はしてくれないんじゃないかなという気がしますけど、いかがでしょうか。

朽木篤 教育改革推進課長

御意見ありがとうございます。

確かに、これだけの方策ではないと思っていますので、今後検討してまいりたいと思っています。ありがとうございます。

苫野一徳 委員

他都市の類似事例があるのかどうか、もしあれば教えていただきたいなと思ひまして、あったとしたらどんなメリットがあったり、どんな問題が起こっているかなどを、そういった前例を研究しないことには、ちょっと判断するのが難しいかなと思っています。もしご存じであれば教えていただければと思います。

朽木篤 教育改革推進課長

すみません、手元に他都市の状況はありませんので、後ほどご報告させていただきます。

遠藤洋路 教育長

また後ほどということですね。

	では、今の点はまた調べて、御説明をお願いいたします。 では、ほかに御発言がなければ本件は以上といたします。
・協議（4）藤園中学校・城東小学校 魅力ある学校づくり基本計画（骨子）について 《朽木篤 教育改革推進課長 説明》	
西山忠男 委員	今ちょっとお話があった民間施設の話ですけど、これはどういう考え方で導入が検討されているのでしょうか。
朽木篤 教育改革推進課長	まず、共有化することに伴って、土地の有効活用ができないかというのが1つあります。その民間施設に貸し出すとか、売却はないかもしれませんが、貸し出すことによって熊本市にも財源が入ってくる。それを建設費等々に充当するという考えであります。
西山忠男 委員	やっぱり財政的な考え方でしたわけですね。その場合、どういった種類の民間施設が想定されているのでしょうか。
朽木篤 教育改革推進課長	5月にマーケットサウンディングを開催しましたが、6社程度と接触をしております。 意見交換をした時には、高齢者のマンションや、普通のマンション、あとはスポーツクラブ等の提案も上がっております。
遠藤洋路 教育長	先ほど、小屋松委員の手が挙がっていたようですが。
小屋松徹彦 委員	一緒でした。
遠藤洋路 教育長	一緒ですね。
苫野一徳 委員	2つお尋ねなんですけど、1つは先ほどの民間事業への貸出しに関してなんですけど、どこかに貸し出すというような、そういう意味なんですかね。それか、何か共用スペースみたいなのがあって、いろんな人たちがそこを活用できるみたいな、そういうのもありなんのでしょうか。

朽木篤 教育改革推進課長	どこかへ貸し出すのもありですし、共有スペースもありえると思います。 今の案だと、骨子の3ページ、ちょっと見にくいですけど、A案の右側に薄い青色の部分があると思います。A案ですとグラウンドの右側です。ちょっとぼやけていますが、ここが民間施設というか、共有部分を含めて活用する場所に今予定しているところです。
苫野一徳 委員	ありがとうございます。 やり方によっては市民と交流できるというか、いろんな人たちが混ざり合いながら学び合えるような、そういう活用の仕方也能きのかと思うんですね。学校を開くという意味で、地域と共にあるという意味でも何かやりようはあるのかなというような気がしたので、どこかの事業者に、特定のところに貸し出すというより、そういったいろんな人たちの交流の場ができたらすてきななんていうこともちょっと思いましたので、ジャストアイデアですけど、そんなことも感じました。 あともう一つ、インクルーシブ教育システムという言葉が使われていたんですけど、ちょっと私も記憶が定かじゃないんですが、教育振興基本計画ではインクルーシブ教育の推進というように言い方をしていたかと思うんですね。その中で教育システムと言ったかどうかというのはちょっと記憶が定かじゃないんですけど、教育振興基本計画のほうでインクルーシブ教育という言葉に統一していたら、こちらもそう言ったほうがいいのじゃないかなと感じました。
朽木篤 教育改革推進課長	すみません、「システム」は要らないみたいですので、ここは削除したいと思います。
遠藤洋路 教育長	要らないみたいというのは、教育振興基本計画でインクルーシブ教育と書いているという意味ですか。
朽木篤 教育改革推進課長	インクルーシブ教育の推進になっていますので、そのように修正させていただきます。
遠藤洋路 教育長	はい、分かりました。
村田慎 委員	素人の質問で申し訳ないんですけど、真ん中のページでいう

朽木篤 教育改革推進課 長 西山忠男 委員	14ページの配置比較表の下から2番目のグラウンドに陰が発生するかどうかという項目があって、これはどういう意味であるのかなというのを、すみません、教えていただければと思います。 こちらは、確認してから後ほど回答いたします。 A案、B案、C案を比較いたしますと、C案だけが新校舎とあおば支援学校が離れているんですね。これはちょっと交流を考えたときにやりにくい配置かなと思うので、できればA案かB案でお願いしたいなというふうに思います。 それから、民間施設のお話になると、やはり車が入ってくると思うので、車の動線もやっぱり考えないといけないだろうなと思うんですね。A案の場合は南側から入れるんでしょうかね。B案だと北側から入れるということになるのかなと思いますけど、こどもたちが事故に巻き込まれないように、その辺のこともよく考えて配置を検討したいと思います。
朽木篤 教育改革推進課 長 小屋松徹彦 委員	藤園と城東の敷地には接道がありませんので、入り口も含めて検討をしないといけないと思っています。 教育センターとの複合化ということですけど、これを一緒にすることのメリットといいますか、その利用の仕方において何かあれば教えてください。
朽木篤 教育改革推進課 長 小屋松徹彦 委員	たたき台の10ページにも掲載をしていますが、複合化することで、小中学校の教職員とセンター職員との連携と施設の共有化、特別教室、実習室、研修室等の共用も可能となると思っております。 教育実践と教科等の研修が一体的に図られますので、主体的・対話的、深い学びの実現を目指した学校授業づくりへの支援体制も構築するものと考えております。
小屋松徹彦 委員	教育センターとも一緒に建物の中にある藤園中学校、城東小学校にとっては非常に地理的なメリットが大きいかなと思いますけど、そのほかの学校も同じように利用できるというか、そういったことで考えていらっしゃるんですね。

朽木篤 教育改革推進課 長	他の学校の先生も教育センターを研修等で活用されと考えています。
小屋松徹彦 委員	今ある教育センターの機能は全部そのままそっちに入るとい うふうに考えてよろしいんですかね。
朽木篤 教育改革推進課 長 遠藤洋路 教育長	はい、そのとおりでございます。 教育センターがそこに附属するとか、常にそこで研修と かモデル授業とかを行うということになると、この藤園、城東 がかなり熊本市の中でもモデル的な学校としての機能も持つと いうことになるでしょうから、学校の特色の一つとしてもそこ でいろんな新しい取組をやってみるとか、そういうこともでき るのかなというふうには思いますね。
苫野一徳 委員	今、たたき台の10ページを見ましたら、上のほうに「イン クルーシブ教育の推進を掲げています」というのがあって、そ の次の段落で「インクルーシブ教育システムの構築に取り組ん でいます」とあって、下に脚注があるんですね。なので、これは これでいいのかな。いいのかなというのはちょっとよく分から ないんですけど、何か意図的に使い分けて脚注まで打たれてい るので、考慮された上での記載だったのかなということをちょ っと思いましたので、お任せしてよいのかなというような気が いたしました。
朽木篤 教育改革推進課 長	文言について再整理したいと思います。ありがとうございます。
遠藤洋路 教育長	先ほど苫野委員がおっしゃった、いろんな人が使えるとか交 流できるという話、私も確かにそうだなと思うのは、いつも会 議室というんですか、イベントとか会議とかをやる場所とい うのがどこもいっぱいなんですよね。だから、そういうことが できるようなスペースみたいなものがあったもいいのかなとい うふうに思いますし、教育センターもそこに会議室とか研修室 とか幾つか造るでしょうから、それとも一緒に使うということも できるのかもしれないなというふうに思いますので。スポーツ クラブみたいなどころであれば当然一つのスポーツクラブにず っと貸すということにはなるんでしょうけど、そういうものと

西山忠男 委員	ともに、いろんな人が来て使えるような施設ということでもいろんな可能性を検討できるのかなというふうに思いました。 今、よくよく見て気がついたんですけど、C案が出てきた理由は、これは仮設校舎を建てなくていいから財政的には一番楽だという意味ですね。
朽木篤 教育改革推進課長 西山忠男 委員	そのとおりでございます。 どれくらい金額的には違いが出るんでしょうか。
内村智 学校施設課長	中学校部分の教室数から割り出しますと、大体7億から10億程度の仮設のプレハブ建てが必要になってくるものというふうに算定しているところでございます。
遠藤洋路 教育長	それだけ変わるということであれば、金額的には大きいですね。そういうメリット、デメリットを含めて今後検討ということですね。 では、ほかにはないようであれば本件は以上といたします。
・協議（5）江南中学校・向山小学校・向山幼稚園 魅力ある学校づくり基本計画（骨子）について 《朽木篤 教育改革推進課長 説明》	
西山忠男 委員	先ほどと似た議論になりますけど、案1が今一番いいということのようですが、その理由をご説明いただきたいのと、それから、仮設校舎を建てなくて済む場合の案3、これだと幾らぐらいのお金が浮くのか、そして案3ではなぜ駄目なのかということで、その2点をちょっとお尋ねしたいと思います。
朽木篤 教育改革推進課長	別冊になりますが、たたき台の19ページをお願いします。 こちらについては、それぞれの案につきまして比較検討の表を載せております。 例えば、体育館の日当たりでしたり、おおむね土地が整形であるとかを新校準備会のほうにお示した結果、案1が一番よ

	いとなっております。
西山忠男 委員	先ほどの案3にした場合のお金の問題はどうか。
内村智 学校施設課長	中学校規模そのものは藤園と変わりませんので、大体先ほどと同じような7億から10億程度の仮設校舎という形になりますので、その分は削減できるかとは思いますが、ただ、あそこの場合ですとやはり既存の体育館との兼ね合い、利活とか、その日当たりのある案1のほうが適しているんじゃないかというふうに今思っているところでございます。
遠藤洋路 教育長	案1だとちょうど南側が開いている、日当たりはいいということですね。 先ほどもそうですが、やっぱり使いやすいとか、教育活動がしやすいという案と、安い、早いという案がそれぞれあって、どれを取るかということですね。そこはどのくらい実用性に差が出てくるのかとかも少し詳しく勉強しないと決められないかもしれませんけど。
西山忠男 委員	財源の問題がやっぱり、私が心配してもしようがないんですけど、気になるんですよ。 藤園中の場合は民間施設をそこに造ることで幾ばくかのお金を得ることができるということなんですけど、こっちの場合はそれがありませんから、完全に市の負担になってしまいますよね。市の財政としては、そういう心配をしなくていいのかどうかというのはちょっと気になるんですけど、いかがですか。
朽木篤 教育改革推進課長	江南中と向山小につきましては、向山小のほうが空きますので、そちらのほうでの民間施設の提案等は受けていきたいと考えております。
遠藤洋路 教育長	小学校、中学校の敷地、小学校と幼稚園ですね。そちらに集約すれば、小学校のほうはほかに使い道があるということですね。
小屋松徹彦 委員	図の中でちょっと1つ教えていただきたいんですけど、図の中にある黄色で楕円の部分がありますけど、これは何になるんですか。例えば、1案でいきますと園庭の右側にある箇所とか、

遠藤洋路 教育長	グラウンドの南側にある箇所、この丸いのは何なんですかね。
朽木篤 教育改革推進課長	何も書いていない箇所ですね。
遠藤洋路 教育長	これは屋外倉庫になります。
	倉庫の場所まで今から決めとかなきゃいけない部分なのか分かりませんが。
苦野一徳 委員	先ほどの藤園中、城東小とも関係はしてくるんですけど、やはり新校舎ということになると、せっかく幼小中の連携ということのを大事にしたいということなので、先生方や教育委員会と保護者の皆さん等々で、幼小中が混ざり合うとどんなことができるのかということを十分に研究して対話を重ねて、そのためにこんな校舎にしていきたいという施設の中身を十分検討して、本当に使い勝手のいいものにしていきたいなと思うので、幼は幼、小は小、中は中、同じ敷地内にあってばらばらというわけじゃなくて、どんなふうに混ざり合わせる仕掛けをつくれるかという、そういうところからぜひ建築を検討していただきたいなというふうに思います。 私の勝手に描いているイメージとしては、しばしば言うことなんですけど、中学生が日常的に園児たちに絵本の読み聞かせをしているシーンが見られるとか、そういうようなことが自然に起こるような仕掛けがたくさんあったらすてきなというふうに思っております。
朽木篤 教育改革推進課長	御指摘ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。 新校準備会においても、幼稚園の保護者等も入ってもらっていますので、別にそのような機会を持ちたいと考えております。 一方で、指導課でも、全学年を対象として幼稚園児の発表とかを小学生が聞いたり、それに対してアドバイスしたりとかというのも考えられています。そこも含めて検討していきたいと思っております。
遠藤洋路 教育長	幼小中の一貫ということで、幼稚園だとどうしても人数が非常に少ないというか、行ける人が結構限られると思うんですけど、幼稚園を例えばこども園にするとか、何かもっと多くの人

朽木篤 教育改革推進課長 遠藤洋路 教育長	が行けて、より小中との一貫性というか連携が充実するような、そういう方策は検討しているのでしょうか。 その検討も市長事務部局との連携を図っておりますが、近くに本荘保育園もありますので、そことの関連性とかも含めて、また検討していきたいと考えております。 はい、分かりました。 では、ほかになれば本件は以上といたします。
日程第4 報告 ・報告（2）令和5年度（2023年度）図書館事業統計について 《山内光博 市立図書館長 報告》	
西山忠男 委員	書籍の場合の選書基準というのはどうなっているのでしょうか。購入する本の種類をどうやって決めるかという基準です。
山内光博 市立図書館長	選書基準は、一応要綱に基づいて、うちの職員の司書のほうが選んでいるような状況でございまして、今、図書館とか図書室ごとの資料にバランスよくといいますか、そういったところを選んで本の種類と数を決めているような状況でございます。
西山忠男 委員	印象ですけど、あまり専門的な本は多くないような気がしますよね。そちらのほうは県図書館に多いという感じがしますので、市立図書館としてどんな特徴を出していくのかということを考えながら本も選ばなきゃいけないと思うんですけど、そのあたりの基準、そういう考えがあるのかというのをちょっと伺いたかったわけです。
山内光博 市立図書館長	確かにそういったところ、細かい基準というのまではございませんけど、確かに委員がおっしゃるとおり、専門的な書類、資料というのは、近くに県立図書館もございますので、浅く広くといいますか、市民の方が多く読んでいただけるような本をということで選んでいるような状況でございます。

遠藤洋路 教育長	私からも1つ質問ですけど、5ページですかね、広域利用の表がありますけど、ほかの市町村の住民が熊本市の図書館を使っている、それから、熊本市民がほかの市町村の図書館を使っています。これを見ると、全体としてはほかの市町村の人が熊本市の図書館を使っている数のほうが多いわけですけど、菊池市なんかを見ると、熊本市民が1万冊以上菊池市の図書館から借りていて、一方、菊池市民が熊本市の図書館を使っているのは800冊とか、非常にお世話になっているといえお世話になっているんでしょうが、熊本市民が菊池市の図書館を使っている数がほかの市町村と比べて圧倒的に多いんですけど、これはなぜなのでしょう。
山内光博 市立図書館長	すみません、細かいそういった分析はしておりませんが、菊池市の方が熊本市の利用ということであれば、北の方面に植木図書館とか龍田図書室等がございますが、ちょっと魅力的というか、広い図書館ということでは不足しているものと考えております。 熊本市民の方が菊池図書館はなぜ多いかという、同じように、北区とかの方につきましても植木図書館とか龍田図書室とかいうことではちょっと、ほかに図書館、図書室等を求めているらしい要望があるのかなとは考えております。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 ここに登録者と利用者と貸出数とありますけど、登録者というのは1人が登録していれば1なんですよね。
山内光博 市立図書館長	はい、そうです。
遠藤洋路 教育長	利用者というのは、1人が10回、10日間本を借りたら10という、そういうことになるんでしょうか。
山内光博 市立図書館長	はい、延べ人数になります。
遠藤洋路 教育長	そうすると、菊池市の場合は、登録者は90人で貸出しが1万1,000ということは、ものすごくたくさん本を借りる人がいっぱい登録しているというふうに、数だけ見るとそういうことですかね。登録者数はほかの図書館とそんなに、ほかの市町村とあまり変わらないから、非常に熱心な図書館ユーザーが

	この90人の中に含まれているということなんじゃないかな。
山内光博 市立図書館長	登録者数はその年に登録した人数でございまして、利用者数というのはトータルで、今まで登録した方も含めたところの利用者数となっております。
遠藤洋路 教育長	じゃ、たまたまこの年に新規が90人ということなんですね。
山内光博 市立図書館長	はい。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 じゃ、特にこの90人がすごい借りているというわけではないわけですね。分かりました。 菊池市の図書館がそれだけでも魅力的なのであれば、それはものすごく何か我々も学ぶことがあるのかなというふうには思いましたけど、分かりました。
小屋松徹彦 委員	事前にご説明いただいているのかもしれませんが、この登録というのは年度、毎年登録ということでしょうか。
山内光博 市立図書館長	毎年ではございまして、5年に1回更新という形になります。
小屋松徹彦 委員	5年更新なんですね。はい、分かりました。
苫野一徳 委員	今、菊池の図書館がお話にあったもので、菊池の図書館、有名だったよなと思って今見ましたら、アメリカのインテリア建築専門誌の特集で「ゆっくり過ごしたい世界の12の図書館・書店」の一つに選ばれたと書いていますね。そんなレベルだったんですね。
遠藤洋路 教育長	世界的に有名な図書館なんですね。
苫野一徳 委員	ということのようでしたね。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 じゃ、図書館が魅力的だと貸出冊数も増えるということですね。

西山忠男 委員	似たような話で、宇土市の図書館が非常に素晴らしいという話で、たくさんの人が熊本から宇土市の図書館に行っているというので、ちょっと一度行ってみたいと思います。
遠藤洋路 教育長	貸出数を見る限り、宇土市の図書館は菊池には及んでないようですけど、でも、そうですね、近隣の図書館で魅力的なところに行っているんでしょうね。
山内光博 市立図書館長	宇土市じゃなくて宇城市かなと。
西山忠男 委員	ごめんなさい、宇城市です。宇土市ではなくて、宇城市でした。
遠藤洋路 教育長	宇城市ですかね。宇城市はこの広域利用は、先ほど出てきた中でいうと入っていないわけですね。熊本市、この枠組みじゃなくて誰でもいいですよという、先ほどの話ですと。熊本市民がどのくらい宇城市の図書館を使っているかというのは、データとしてはないということなんです。 では、ほかになれば本件は以上といたします。
・報告(3) 令和7年度市立高等学校使用教科用図書の採択について 《松岡美幸 指導課長 報告》	
・報告(4) 令和6年度(2024年度)全国学力・学習状況調査の結果について 《松岡美幸 指導課長 報告》	
西山忠男 委員	4ページの算数・数学に関することという設問のところで、2番の「算数(数学)の授業の内容はよくわかりますか」というのが中学で全国に比べてマイナス3.7%なんですよね。これ、数学の教科書採択のときにかなり話題になったんですけど、どうして全国よりここが低いんだろうかということなんですけど、教科書が難し過ぎるのか、それとも教え方が悪いのかとい

	う議論になったけど、結局よく分からなかったんですけど、それについては何かお考えはございますでしょうか。
松岡美幸 指導課長	申し訳ありません。実際の授業の様子等については、数値のデータはうちにあるんですけど、実際のところとの情報が入手できておりませんので、教育センターとまた情報を共有しながら、原因等も今後またしっかり捉えていきたいと思っております。
遠藤洋路 教育長	教育センターからは何かありますか。
楳木敏之 教育センター副所長	この結果のほうは、令和5年と令和6年を比べると少し増加ということですけど、全国と比べると例年低い状況が続いておりますので、やはり実際は、この項目については全国よりも生徒の実態は低いということを受け止めているところです。 現在、こどもたちが主体的な学びを推進しているところですけど、そのやり方も含め、もう一度指導課とも連携しながら、また、どのような方法がいいのかというのをもう一回検討しながら、さらにこどもたちの学びが変わっていくように推進していきたいと思っていますところですよ。
遠藤洋路 教育長	前年度に比べると結構改善しているので、一概に教科書がということではないんでしょうね。 数学に限らず、全体的に中学校の授業に関することは、前年度に比べると非常に改善しているので、中学校の授業が変わってきているんだとしたら、それはすごくいいことだなというふうには思います。 中学校の、これ、おおむね前年度よりよい質問紙の結果だったという、この改善した理由というか、それは何か指導課のほうで把握しているものはありますか。それとも何かやってみたらよかったことはどうでしょうか。
松岡美幸 指導課長	現在、数校ですけど、結果がよかったというところに対して聞き取りをさせていただいております。 データに関して言えることが、全体的に上がってきたというよりも、上がっている学校が見られている。それで平均も上がっているというふうに見えているところです。 結果が良かったところに共通して言えることが、こどもたち

遠藤洋路 教育長	一人一人に対してしっかり子どもたちが考えるための授業をしようということで、学校で、先生たちみんなで共有をしているということをおっしゃっていました。子どもたち一人一人全員が参加できる授業を目指して取り組んでいるということをおっしゃっていました。 あと、タブレットの活用に関しても、もう使うのが当たり前というような状況になっていますので、そういう学校ぐるみで組織的に取り組んでいるということは、非常にこういう形で結果も出ているというふうに分析をしております。 分かりました。 じゃ、全部の学校で全体的に上がっているというよりは、あまり上がっていない学校もある一方で、上がってきている学校もあるという、そういう状況なんですね。はい、分かりました。 じゃ、ぜひ上がっている学校の取組をほかの学校にも広げていけるように取り組んでいただければと思います。
松岡美幸 指導課長	校内研修をしっかりと学校で組織的に回している、そして教科の、5教科だけじゃなくて、それぞれの先生方が課題も自分事として、じゃあ、自分の教科ではどういうことを取り組んでいくのかということをしっかりやっていってほしいというふうなことで聞いておりますので、今、校長・園長会でもそういう校長先生、園長先生方の校内研修のマネジメントということに取り組んでいます。そういう学校ぐるみで組織的に、校内研を中心として授業改善をやっていこうということを全市的にもっと進めていきたいと思っております。
遠藤洋路 教育長	分かりました。
小屋松徹彦 委員	4ページの先ほどの国語と算数・数学の問題ですけど、4の数字がまた全国と比べると低いという、一番大きい数字が出ていますけど、要は最後まで書こうと努力したかというのが低いところを見ると、熊本の生徒はちょっと淡泊というか、諦めが早いというか、何かそういった特徴があるのかなと思いましたけど、その辺は何かありますか。
松岡美幸 指導課長	今のご質問の確認ですけど、子どもたちが最後まで努力しようとしたということですか。

小屋松徹彦 委員	はい、そうです。
遠藤洋路 教育長	最後まで努力しようとしなかった子どもが多いということですよ、これは。最後まで努力しようとした子どもが少ないということですよ、全国の平均と比べて。その辺は熊本の子どもが淡白なんですかという、そういうご質問だったと思います。
松岡美幸 指導課長	すみません、その分析はできておりませんので、今後、確認をしていきたいと思います。
西山忠男 委員	関連してですけど、これは多分記述式の問題に対してどれだけ答えられたかという話ですよ。それで、数値自体は非常に低い、45.4ですから、記述式の問題は皆さん不得意だということが端的に出ていますよね。全国よりも低いですけど、全国的にはやっぱり低いんだと思うんですよ。だから、記述式の問題に対する取組方というのは、校内研修でやっぱりやっていく必要があるのかなと思いますね。 単に計算して答えを出して、数値だけ書くというのはできても、考えの筋道立てて式を立てて、並べて答えを導くという、そういうところがやっぱり下手くそなんだなということなんですよ。感想です。
遠藤洋路 教育長	以前から、これ、無答率というんでしょうか、解答、答えを書かない率が熊本市は高かったような気がするんですよ、全国とか周り比べて。だから、やはりこういう記述式とか、書く問題で書けないとか、あるいは選択式でもそうなのかもしれませんけど、結構すぐ諦めちゃうという傾向は確かに以前からあるんじゃないのかなというふうに思うんですよ。そこは今回だけではなくて、確かに以前からの課題ではあったかと思うんで、ぜひ指導課のほうでも研究していただいて、改善できる場所はお願いしたいなと思います。
松岡美幸 指導課長	ご意見ありがとうございます。 今お話があったように、子どもたちが単に知識を得るだけで、受け身で話を聞いているだけ、単問を解いていくだけでは、なかなか文章の記述だったりとか、そういう力はつきにくいと考えております。

	授業の中でこどもが課題を自分事として捉え、そして対話等を通してそれを考えながら、自分でその後、活用したりとか、また表現したりとか、いろんなことをやっていく中で力もついていくと思いますので、まずはこどもたちが主体的に参加できる授業改善ということをしっかり進めていまいりたいと思います。
村田 稔 委員	今の4番の記述式になると途中で諦めてしまうところ、特に中学ではマイナス4.6ということで、ただ、3番の項目で、将来社会に出たときに数学が役に立つかというところはとてもポイントが上がっているんですね、前年度と比べて。特に中学生のほうでは全国との差もプラスになっていて、この3番と4番が、日頃の授業とか自分で学習していく中で3番の項目と4番の項目が何とか結びついていってくれたらいいなというふうに、今、切に思っていたところでした。感想です。
遠藤洋路 教育長	分からないときに適当に書かないという意味では、ある意味何か誠実なのかもしれませんけどね。そういう解釈はあまりないですかね。
村田 稔 委員	自分のこどものことであれですけど、やっぱり文章題になると書いていることが最後までたどり着かないんですけど、たどり着くかなというところまで書いても消してしまうときがあるんですね。書いていることがすごく間違っていて恥ずかしいんじゃないかみたいな、思い切ってそこを途中まででもいいから書くという、そこになかなか結びつかないので、今おっしゃったように、分からないものは書かないという子、ある意味潔さはあるかもしれないですけど、ただ、臆せず何かとにかく頑張ってみようというふうに思ってくれるお子さんが増えるといいなというふうには思っているところです。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。 苫野委員は一生懸命タブレットを見ていますけど、何か、大丈夫ですか。
苫野一徳 委員	学校が楽しいですかというのがいつもすごく高いですね。これがいつも不思議な気もするんですね。不登校がこれだけ多くなっているとか、そういう現状を考えると、全国的に結構

松岡美幸 指導課長	ここは高いんですよね、数値が。これ何なんだろうなというのはいつも不思議なんです。何か心当たりがあればお聞きしたいなと。 聞いたところでは、個人特定されるんですよね、この調査は。なので、ちょっと書きにくいみたいなのがあるんじゃないかみたいな話も聞いたことがあるんですけど、何か心当たりのところがあればお聞きしたいなと思うんです。 ご意見ありがとうございます。 個人が特定されるから本音が書きづらいとかいう話は、私は今初めて聞いたので、そういうことはあまり考えていない状況でした。
遠藤洋路 教育長	この全国学力調査だけでなく、熊本市でやっている心のアンケートも全ての学年でやっていて、無記名でやっているわけですけど、それも毎年非常に高いんですよね。学校に行くのは楽しいと思いますかというのは90%を超えるぐらいの数字なので、個人が特定されるからということではないのかなというふうには思いますけどね。
苦野一徳 委員	すみません、変な邪推を。いや、それはそれでとても望ましいというか、好ましい結果だなと思うんですけど、この不登校の多さを考えたときに、なかなか不思議な数字だなというのは毎回ちょっと感じるので、でも学校が楽しいと思っているのであれば、それはすばらしいことだなというふうに思いました。
遠藤洋路 教育長	私も一回不思議だなと思ったことがあって、楽しいと答えている人以外はみんな不登校になっているぐらいの割合じゃないと、これは何かバランスが取れて、本当にそうなのかなと思ったことは、二極化しているんですかね、どうなんでしょうね。でも、全国と比べても高いということはいいいことだとは思いますが、すけどね。 ここがいつも高いんですよね、熊本市。これに限らず、どの調査でも非常に学校が楽しいこどもが多いんで、その点はいいいことだなと、喜んでいいのかなと思いますけど。 では、ほかになれば本件は以上といたします。

・報告(5) 令和7年度(2025年度)熊本市立学校管理職等採用選考試験の申込状況等について

《上村清敬 教職員課長 報告》

遠藤洋路 教育長

今の有資格者というのは、何か抜けていたところがあったということなんでしょうか。

上村清敬 教職員課長

システムから抽出ではなくて、うちの職員の持っている情報の中でこれまで有資格者数をカウントしておったところ、より確実にシステムから抽出したところ、誤りがあったことが判明したものです。

遠藤洋路 教育長

分かりました。手作業でやっていたら、実は数字が違ったということですかね。

西山忠男 委員

お願いですけど、こういうグラフの作り方はやめていただきたいんです。どういう意味かということ、この青の線の目盛りは右側で見るんですよ。緑と黄土色のグラフは左側の軸で見るんですよ。

上村清敬 教職員課長

そうですね。

西山忠男 委員

だから、これ、同じ目盛りでプロットしてもらわないと意味が分からないですよ。ほとんど、だから青と緑は重なるはずですよ。有資格者と受験者というのはあまり差がないグラフになるはずですよ。だから非常に混乱するので、その点はお願ひしたいと思います。

上村清敬 教職員課長

はい、承知しました。

遠藤洋路 教育長

左と右で軸が違うときは、確かにグラフの種類を折れ線と棒グラフにすると、何らか工夫があったほうがいいでしょうね。
受験者数といいますか、最終合格者数と比べた受験者数というのはおおむね2倍、3倍ですかね。ですから、全国と比べるとこの管理職試験の受験者というのはまだ多い。全国では合格者数といいますか、必要な数を受けてくれないみたいのところ

	もあるようですから、そこに比べるとまだ高いけど、やっぱりだんだん下がっているということで、これは昨年度からも、以前からもずっとそうで課題になっているわけですけど、なかなかこれが上昇しないということですね。どんどん減っているというのは大きな課題ですから、引き続き教職員課でも取り組んでいただきたいなというふうに思います。
小屋松徹彦 委員	校長も教頭もそうですけど、特に校長の平均年齢が53.9歳、一番若い人って何歳ぐらいかな、受けているのが。校長と教頭、それぞれ分かったら教えてください。
上村清敬 教職員課長	すみません、手元に資料がございませんが、私の記憶でよろしければ、校長が50手前、49とか48の方、教頭につきましては30代の方もいらっしゃると思います。
小屋松徹彦 委員	教頭のほうで30代の方もいらっしゃるんですか。この傾向というのは、だんだん若い人が増えているような傾向なんでしょうか。少し下がっているからそうかなと思ったんですが。
上村清敬 教職員課長	申し訳ございません。年齢の分析はしておりません。今度ちょっとトライしてみます。
遠藤洋路 教育長	年齢の構成も結構偏りがあって、40代は非常に少ないんですよね、人数自体が。50代の後半にいけばいくほど多いというような形になっているので、ここの有資格者に対する受験者の割合も、50代の後半の人がものすごく多いということを考えると、もう今さら教頭試験は受けないよという人の年齢層ですごく多くて、30代後半から40代、よし、これから教頭試験を受けるぞという年齢の数がすごく少ないので、もしかしたらこういうふうに自然になるのかもしれない、そういう年齢的な問題なのかもしれないですけど。そこはもう少し分析してみないと分からないところはあるのかなと思いますが、少なくとも、今40代が極端に数自体が少ないと。だから、受験資格は1回得た後はずっとあるわけですけど、教頭試験を受ける年齢というのが、じゃ、40歳から60歳までみんな受けるかといったらそうでもないでしょうから、一番受けやすい年齢の人の数がそもそも20年ぐらいの年齢層の中で非常に少ないという、そういう理由はあるんだろうなというふうには思いますね。

では、ほかになければ本件は以上といたします。

- ・報告（6）熊本市立平成さくら支援学校における令和7年度（2025年度）使用予定一般図書について

《野田 建男 総合支援課 特別支援教育室長 報告》

- ・補足説明

《朽木篤 教育改革推進課長 説明》

朽木篤 教育改革推進課長

先ほど規模適正化の件で1点と、藤園の件で1点ありましたので、ご報告させていただきます。

最初に、規模適正化の件で苫野委員からご指摘がありました、他都市の類似事例があれば教えてほしいということとメリット、デメリットについてということですが、他都市の類似事例としては、神戸市がうちと同じような形で、小規模校については隣接校と校区を変更して小規模校の校区を広げるということをされております。大規模校についても同じようなことをされております。ただ、校区の変更が難しい場合は、先ほど申しましたとおり、希望選択制ということも検討しますと書いてあります。

神戸市は同じような形で、岡山市ですが、岡山市はちょっと踏み込んでいまして、過小規模校と過大規模校のみに対応すると明記してあって、小規模・大規模校については、児童生徒数の推移を見ながら、早急な対応は行わないという記述も確認できました。

ただ、他都市のメリット、デメリットの研究についてはその整理まで間に合いませんでした。11月に素案の報告をさせていただきますので、そこでまたご報告したいと考えております。

あと2点目の藤園の日影についてですが、私が見落としていまして、左側に民間施設による影響でということの前提がありました。A案については民間施設の影響で、東側に民間施設がありますので、グラウンドに影が発生することになります。

	ただ、B案、C案も東側に新校舎、C案は南側に新校舎がありますので、少し上のほうにいていただきますと、また校舎の陽当たりという点で、同じように、東側に新校舎があるB案は東側の校舎がグラウンドに影が発生すると、C案については南側に校舎があるのでグラウンドに影が発生すると、同じような形で記載があります。ちょっとこの辺を見落としておりましたので、説明できませんで、申し訳ございませんでした。
遠藤洋路 教育長	じゃ、今の点、補足説明はよろしいでしょうか。
西山忠男 委員	今、民間施設との干渉ということで日当たりの問題が出ましたけど、民間施設にどのような施設を入れるかというのは重々検討していただきたいと思うんですね。 仮に、さっきマンションと言っていましたけど、マンションが入ると必ず住民から苦情が出ますよ。学校の運動場がうるさいとか何とか、本末転倒なんですけど、後から来て文句言っって何事だと思うんですが、それが普通に起こっていることです。から、スポーツ施設だったらそういうことはないと思いますけど、そこも十分配慮して選んでもらいたいなと思います。
苦野一徳 委員	規模適正化について、ありがとうございました。 もう少し踏み込んだところも知りたいなと思いますので、11月にまた議論できたらと思うんですが、今回とはまたちょっと趣旨が違うというか、観点が違うのかもしれないんですけど、過去の事例で学校選択制をやった自治体で、都市部のほうでやると、様々な研究で明らかに格差が拡大して固定化したという、そういう結果がたくさん報告されていて、今回は規模の適正化ということなので、その目的においては一定程度弾力化するということはありかもしれないんですけど、先ほど西山委員もおっしゃったような、例えば小規模校を非常に特色のあるものにしていったり、魅力化していくようなことをやっていくと、何がしかのちょっといびつな感じが出てこないとも限らないなという感じがあって、そういった全体性を見ながら特色のある学校をつくるんだとすると、そこはどのような通学区域が望ましいのかということ、全体性を見ながら考えていく必要があるのかなというふうに思いまして、そのあたりもちょっと頭に留めながら、11月にまた議論ができたかなというふうに思いました。

村田 稔 委員	ありがとうございました。
	日陰についてのご回答をいただきまして、ありがとうございました。 校舎への日当たりとか影響というところは理解できたんですけど、その下のほうのA案のところの「グラウンドに影が発生」というのがどういう影響があるのかとか、グラウンド自体に陰が発生するということにどういう問題があるのかという意味でお尋ねをしたところでした。
朽木 篤 教育改革推進課長	影が発生することで、例えば、グラウンドが乾きにくかったりとかというのは考えられると思いますし、陽当たりの影響でグラウンド整備の問題というのも考えられると思います。
遠藤 洋路 教育長	寒いところだったら、陰だとやっぱり冬とか、霜柱とか、なかなかとけないとか大変なこともあるかもしれませんが、ここの場合どうでしょうね。逆に日陰のほう暑くなくていいとか、まぶしくなくていいとか、むしろ日陰のほうに向いているんじゃないかという気もしなくもないですけどね。途中で日なたの部分と日陰の部分で分かれちゃうと、スポーツとかは有利不利になったりとか、そういうところもあるかもしれませんけどね。 これを見ると、A案でもB案でもC案でも全部日陰になりますよね。どれがいいというようなことのメリット、デメリットは、日陰に関してはなさそうな気はしますけどね。Cが一番南側が塞がれるので日陰が大きいのもかもしれませんが、でも村田委員がおっしゃるように、確かに日陰だから何なんだと言われると、そこまでそれがデメリットになる場合とそうじゃない場合はあるのかもしれませんがね。 では、ほかになればこの件は以上といたします。
〔非公開の審議〕	
日程第3 協議	
・協議（6）令和9年度市立高等学校入学者選抜について	
《松岡美幸 指導課長 説明》	
《坂本憲昭 熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課長 説明》	

《八幡英幸 県立高等学校入学者選抜制度検討委員会会長 説明》

〔公開の審議〕

日程第5 自由討議

・こどもの体力向上の取組について

《松岡美幸 指導課長 報告》

遠藤洋路 教育長

では、ただいまから討議に入ります。時間は30分程度を予定としております。

まず、今回の自由討議のテーマは、これ西山委員からのご提案でしたか。

西山忠男 委員

はい。

遠藤洋路 教育長

西山委員から何かありましたらお願いします。

西山忠男 委員

まず、全国平均を下回っている項目がかなり多いですね。だけど、運動が好きだという生徒はかなりいるという、その矛盾がよく分からないですね。それで、大分県の取組が新聞で報道されたので、参考にしてみようかなと思ってご提案させていただいたわけなんですけど。やっぱり一番最初に言ったなぜ全国平均よりもこんなにも低い項目が多いんだろうかっていうのは、非常に不思議でたまらないんですけど、その分析はできているのでしょうか。

松岡美幸 指導課長

全国平均よりも低い項目が多いということですね。実際になぜ多いのかというところの分析までは、細かくはできていない状況でございます。ただ、コロナ禍を過ぎて、若干上昇傾向にあるというふうには受け止めているところでございます。

西山忠男 委員

記憶が正しければ、ずっと前からもうこの長座体前屈というのが非常に低いんですね、いつも毎年。何でかなって、これ。そのたびに議論になって、分からないねということになっちゃうんですけど、やっぱりこのデータを見ても、やっぱり同じ傾向が出ていますもんね、どうしてでしょうね。非常に不思議で

	たまりませんけど。 いずれにしても、ちょっと全国平均を上回る項目よりも下回る項目のほうがかなり多いので、その改善をやっぱり図る必要があるなと思う一方で、もう一つ、全く別の観点からすると、もう最近の夏が非常に暑くて、熱中症の危険が高まっていますよね。だから、夏休み直前とか夏休み中の部活動とか、相当気をつけないといけない状態になっているので、その兼ね合いも難しいなという気がしています。
遠藤洋路 教育長	確かに低い種目はずっと低いんですよ。ただ、原因が分からないと改善しようもないというか、それはいっぱいそればかり練習すれば解決するんでしょうけど、それはあまり何か本質的な解決じゃないでしょうから。何かこの年のこどもの運動の仕方が偏っているとか、生活の中で足りない要素があるとか、そういうことがあるんでしょうかね。あまりそこまで変わったところがあるとは思えないですよ。 そうすると、何かやっぱり測り方なんじゃないかと、そういう話になっちゃうわけですけど。ただ、熊本市の中でも当然、学校によって長座体前屈が、平均値が高い学校と低い学校はあるわけですよ。だから、全国と比べていい数値になっている学校がどういうことをしているのかというのを参考にするというのが、まずはできることかなんですけど、その辺はどうですか。
松岡美幸 指導課長	まず、測り方ということで、今、教育長がおっしゃったことについて回答させていただきます。
中山晋 指導課教育審議員	失礼します。測定方法や実施方法についてですが、体育主任会等で正しい測定方法、実施方法について周知、確認をしているところです。 その理由は、特に小学校の場合は、担任の先生が体育の授業で測定をすることがありますので、具体的には、反復横跳び、上体起こしの時間の計測の仕方、シャトルランと長座体前屈の実施方法、測定方法について小さいばらつきがあり、それが記録に反映されている部分があるのではないかという分析で、昨年度、本年度も体育主任会で測定方法については確認をして、周知をしているところです。 特に、小学校3年生が熊本市内の場合は、初めてスポーツテ

西山忠男 委員

ストを行います。それと、中学校1年生は小学校を卒業して、中学校で初めて測定をしますので、慣れない項目に対して丁寧な説明を行ってから、スポーツテストを実施するということを徹底しております。

中学生女子の長座体前屈のデータを見ると、全国より4センチ以上低いんですね。4センチというのは、測定誤差ではあり得ないと思うので、かなり大きな差がやっぱあるんですね。これ不思議でたまらない。

遠藤洋路 教育長

何でしょうね。いや、はかり方がばらつきがあるのであれば、当然上にも下にもばらつくのであれば、中学生だけで2万人もいて、小学生で4万人もいるわけですから、平均すればそれは誤差はほぼゼロになるんだと思うんですね。だから、やっぱり測り方とかではなくて、現に何か低い結果が出ているということなんでしょうけどね。

これはあれですか、学校ごとにいい学校もあるんですか。そこは調べていませんか。

松岡美幸 指導課長

申し訳ございません。学校ごとの分析は調べておりませんので、そこは今後確認をしていきたいと思います。

長座体前屈は体の柔軟性というところになりますけど、私の感覚的なことで大変申し訳ないんですけど、年々こどもたちの体が硬くなってきているというのは非常に感じます。それと同時に、真っすぐ脊柱起立筋といいますか、ここをしっかり伸ばして座るということも難しいような状況で、猫背になってしまったらというのと、あと、体が非常に硬くて、柔軟性に乏しいというか、すぐけがをしてしまうということで、年々それが増えてきていると感じます。それはコロナ禍を過ぎて、さらにそう私が感じたところでございますので、もしかしたらこどもたちの運動の機会が減少していることが、柔軟性が足りないというか、そういうことにつながっているかもしれないんですけど、それは熊本市だけの問題ではないので、もう少しデータを見ながらしっかり分析をしなくてはいけないなということを感じます。

それともう一点、別の角度からのお話として、指導課が体力の調査結果から、体力向上の表彰校をしております。その中で、高い数値が出ている場合は、各校ごとに取組をしっかりと

西山忠男 委員

ている。取組の一つとして、動的ストレッチとか静的ストレッチに取り組んでいるとかいう具体的な実践もあってしますので、やはり各学校が課題をしっかりと捉えて、それに向けて全校的に取り組んでいただくということが一つ改善の方向性であるので、こういうよい取組をしっかりと周知していきたいと思っているところでございます。

私が気になっているのは、栄養の問題と関係がないのだろうかという、それは要するに、熊本は地下水を飲んでいるんですよね。P F A Sの問題もありますけど、地下水には微量元素は必ず入っていますから、そういう微量元素の影響で体が硬くなっているということはないのかなというようなことはちょっと気になるんですよね。これは、栄養学の専門家に聞いてみないと分からないことなんですけどね。それはちょっと非常に気になっているんですよ。

遠藤洋路 教育長

熊本の市内の水道は全部地下水で、確かに地下水でミネラルが豊富な水を飲んでいると体が硬くなるとか、何か地下水に入っている要素が体を硬くしているのであれば、それは確かにそういうことはあるのかもしれませんが、ただ、科学的にはまだそこは検証はできていないところでしょうけど。

いずれにしてもやっぱり、先ほどからありますけど、学校ごとの違いとか何かを手がかりに、この長年の懸案を少しでも改善できるような取組を考えていかなきゃいけない。

栄養という意味では、もしかしたら熊本市の給食に何か体を硬くするものがある、そんなわけでもないですよ。食べているもの、飲んでいるもの、生活習慣、どの辺に理由があるのかです。少し本格的にやっぱり調べていただいて、あまりにも毎回違う、かなり全国と比べて低くなっているということですよ。

先ほど課長がお話しされた過去に比べて下がっているという、それももちろん大事な憂慮すべき点ではありますが、とはいえ、現在ほかの市町村やほかの県と比べて低い、全国と比べて低いということであれば、それはそれで別の問題としてやっぱり何かがあるんでしょうから、そこは解決していかないといけないというふうには思いますよね。

小屋松徹彦 委員

なかなか妙案というのはないんですけど、僕らが小さい頃と

というのは、もう外で遊ぶのは普通でしたし、いろんな遊びがあって、こどもたちはもう運動場で遊ぶというのは普通でしたけど、今はどっちかというと、スマホとかYouTubeとかゲームとか、そういったことでどだい体を動かす機会が減っているというのは、根本的に原因じゃないかなと私は思っているんですね。これはもうなかなか直せといったって直らないし、そういうふうに変わってきている状況の中で、でもどうしていくかということなんですけど。

お相撲さんなんかは結構、体が軟らかいんですね。股割りができるとか、やっぱり訓練で軟らかくしていくんですけど、やっぱり体の軟らかいということは、非常にいろんな運動に対応できるんじゃないかなと思うので、柔軟性というか、そういったことをまずこどもたちには持っておいてもらいたいなと。小さい頃は、みんな体軟らかいんですね。あれがだんだん硬くなってくるんで、それが柔軟性を保てるようなことができれば一番いいかなと。

ただ、今のこどもたちの環境からすると、なかなか自分でせえと言ってもできませんので、これこそ体育の授業の改善だと思うんですね。授業の中でも意識して体あちこち伸ばすとか、そういったことをやることをずっと続けていくと、ある程度体の軟さというのは保てるのかなと。そうすると、いろんな運動をするときでも、恐らくそこを起点によくなるんじゃないかなと思いますので、学校の授業を工夫し改善していくのが手取り早いかなと思っています。

遠藤洋路 教育長

ありがとうございます。

村田槇 委員

このスポーツテスト、体力テストの項目って、毎年そのときにしかやらないものばかりですね。シャトルランとか握力とか、そのときの数字だけ上げればいいわけでもないのはもちろん承知しているんですけど、こどもがいた小学校で、大人げない大人からの挑戦状という取組をされていて、そのスポーツテストの項目を先生がやってみたという一覧が、ずっと廊下に貼り出されていて、先生に勝てるかなという取組をしていたんですね。到底及ばないような子でも、一生懸命挑んでみようといってやっていたんですね。どれぐらいの期間やっていたとか、細かいところまではちょっと覚えてはいるんですけど、しばらくそれに挑戦するために練習している子を見かけたりとか

	したので、やっぱりさっきのフレンドリーオンラインのときにもお話ししたんですけど、とても面白いなと思ったのと同時に、継続したやる気につなげるためにという意味では、体力の授業もですけど、一般の学力向上の授業でもやっぱり共通して同じことが言えるんだなというふうに感じたところでした。 それと、全然話がそれてしまうんですけど、スポーツテストの最後に、一定の結果が出た最後に、あなたにお勧めのスポーツというのが載っていて、うち、飛び込みって書いてあったんですよ。いろいろ、大分ことごとく平均は下げている側の結果なので、いろいろ消去法でたどり着いた先が、何で飛び込みだったのかなって思って見たら、ちょうど体前屈だけやたら高かったんですよ。ただ、それができれば飛び込みができるというわけでももちろんないと思うんですけど、あのお勧めのスポーツというのは、それでこどもが興味を持つかと思ったら、オリンピックでせっかくメダルを取られたのに全く見ていなかったんですけど、あの部分というのは、もうちょっとこどもたちのモチベーションにもつながってくれるといいのかなというふうに個人的に思った夏でした。 以上、感想です。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。むしろ、この中でこどもに勝てそうな気がする種目が全くないですね。体重とかだったら勝てる自信は。頑張ったら握力ぐらいいけるかもしれないけど、それ以外はちょっととても及ばない気がしますけどね。やっぱり学校の先生は日頃から運動しているから。
松岡美幸 指導課長	本当に参考になるご意見、ありがとうございます。スポーツテストを多くの学校は年1回やっているんですけど、小学校が主になんですが、最初にやったテスト結果をこどもたちがちゃんと認識していて、例えばシャトルランとか、それに長距離走的な運動をやった後に、1学期末にまたもう一回やってみるとか、一定期間ごとにはかっているという事例も聞いております。数はそんなに多くないと思いますが。 今、村田委員が言っていたいたような、ちょっと楽しみの要素のあるようなことで、継続的に取り組んでいく活動もしっかり学校のほうにお知らせをしていきたいと思ったところです。 あと、お勧めのスポーツも、飛び込みというのは、ちょっと

	取り組みはなかなかできないと思うので、確認をしてみたいと思います。ありがとうございます。
遠藤洋路 教育長	新たな可能性を発見するにはいいのかもしれませんけどね。
苫野一徳 委員	ちょっと派生的なお尋ねになるんですけど、重過ぎるランドセル問題というのが何年も続いて、全国的に問題になっていると思うんですけど、本市はどうですかね。タブレットも毎日持っていたりするので、あれでやっぱり体が歪むとか、そういった問題がずっと指摘されているので、ちょっと気になったんですけど。
松岡美幸 指導課長	ご意見ありがとうございます。ランドセルの重さに関して、確かに議会のほうからも質問があったりして、去年は学校のほうに重くならないようにお願いをしており、それは昨年までもずっと継続してやっていたんですけど、去年やったこととしては、数校ピックアップさせていただいて、そこでランドセルの重さを1週間量って平均を出していただきました。その結果、そんなに重過ぎるということはなく、平均的な重さであると捉えているところです。 私が通勤の途中に、ちょっと私が、遠方に住んでいるので小学校を四、五校見てくるんですね。通学しているこどもさんの荷物を確認しながら来るんですけど、両手に抱えてとかいうことはもうほぼゼロで、ランドセルの重さまでは見た目で分からないので、そこは分からないんですけど、あまりもう熊本市で荷物をすごく抱えて、体に負担が来ているという状況はないと見ております。
遠藤洋路 教育長	ほかの教育委員会の職員は、同じようにずっと通勤してくると、校区によって全然荷物の量が違うという、ある学校の校区はすごい何かみんないろいろ持っているけど、隣はそうじゃないみたいなことを言っている人もいたので、もしかしたら、ばらつきあるのかもしれないというふうには思いましたけどね。一部にやっぱり重いというご指摘があるのは確かですから、それでまだ改善の必要はあるんじゃないかというふうには思っています。ただ、それがここに出てきているかと言われると、そこはちょっとまだ分からないというふうに思いますけどね。

西山忠男 委員	さっきちょっと申し上げました熱中症の予防については、どういう対策を取っていらっしゃるでしょうか。
松岡美幸 指導課長	それについては、たしか5月の初め、それより前だったかもしれませんが、学校のほうに通知をしております、大きな熱中症の事案が出たときに重ねてまた、お知らせをしているところでございます。 あと、担当者会でも熱中症の注意はしっかりするように、重ねて学校に伝えております。
小屋松徹彦 委員	今の課長に関連してですけど、例えば今、外では大変ですね、昼間。ということで、体育館でということになるかもしれませんが、体育館もかなり暑いそうですね。今、何か大きな扇風機みたいのがありますけど、あれでやっていて大丈夫ですかね。どうなんですか現場、相当暑いと思うので。
松岡美幸 指導課長	私の学校勤務のときにも大きな扇風機はあったところですけど、あれで解消できるかということ、必ずしもそうではないかなというふうに私自身は感じたところです。やはり、こどもの安全、命が第一ですので、暑さ指数を学校で見えておりまして、危険性が高い状況であれば中止をするというふうに、各学校で判断をしているところでございます。
遠藤洋路 教育長	熊本は暑いから、運動する量が少ないとか、そういうこともありますよね。暑さ指数とかを運用していけば、運動できる日数というのは地域によって変わってくるわけですから、もしかしたら北のほうがどんどん運動するという可能性もなくはないですけどね。体育の授業が少ないとか多いということはないですね。
松岡美幸 指導課長	ないです、はい。
遠藤洋路 教育長	標準授業時数ではありますけど、ほかがみんな余計やっていると思いませんね。 熱中症対策は最近、特にですけど、力を入れてというか、注意してやっているところであります。 では、ちょっと根本的な原因というのは分かりませんが、表

に出ているものから考えていくと、やっぱり学校ごとの差であったり、何かその平均を超えているようなところの取組を見つけて、それをいいところをほかのところでも取り入れるという、そういうことを少ししていく必要があるんだろうなと思いますので、ぜひそこをお願いしたいなと思います。

では、本日は自由討議は以上といたします。

〔非公開の審議〕

日程第3 協議

- ・協議(1)(仮称)熊本市こども計画の骨子案について

《那須光也 こども政策課長 説明》

- ・協議(2)熊本市立中学校における新しい学校部活動の在り方について

《朽木篤 教育改革推進課長 説明》

〔閉会〕

遠藤洋路 教育長

本日の会議日程は全て終了いたしました。

以上で令和6年8月定例教育委員会会議を閉会いたします。